LIBRARY INFORMATION

『薔薇の名前』のなかの図書館……館長　池　田　　廉……2
――外大図書館発展史　その2――……事務長　松　村　俊　一……4
1987年度図書館統計……8
昭和62年度購入外国学術図書について……11
An Original &Reprint Book Collection on Japanology.（日本関係研究コレクション）……12
〈お知らせ〉　第10回大阪外国語大学石濱文庫記念講演会の開催について……13
ドゥワルカダース図書館のことなど……図書委員会委員長　桑　島　　昭……14
本学所蔵の復元「イドリーシーの世界地図」について
アラビア・アフリカ語学科助教授　竹　田　　新……15

大阪外国語大学附属図書館　1988.10.25

第4号

『薔薇の名前』のなかの図書館

館　長　池　田　　廉

国際的な名声を得た記号学者のウンベルト・エーコが、長編の推理小説を発表したということで、ここ数年『薔薇の名前』(1960年)はなにかと評判になった。昨年末から日本でも原作の映画が封切られ、その前後には紹介の出版物もかなり多く出た。作品の舞台は、中世末の北イタリアの修道院の写本室や文書室で起こる。写本室（スクリプトリウム）といっても、閲覧室を兼ねているからさしあたり、全体は今日の図書館である。いかにも推理小説らしいどんでん返しの面白さ、たとえばアリストテレスの『詩論』第二章の「喜劇」の実在とか、本当は目の見える文書館長とか、そうしたことはおくとして、エーコは、『トーマス・アキナスの美学論』を書いた中世学者であるから、当時の僧院図書館の状況が、具体的に綿密に記述されていて、なかなか興味深い。

因みに1347年11月下旬の一週間という時代設定も、よく計算し尽くされたもので、もしも一年後であれば欧州に蔓延した黒死病に係わり、ストーリーは成立しがたく、やや時代を遡れば、人文主義とかけ離れて、盲目の館長が密かに古典の書物に読み耽る、筋の臨場感が失われてしまうに違いない。じじつ、古典古代に関心をもった人文主義運動は1350年頃を境として、アヴィニョンの教皇庁周辺から、中部イタリア、フィレンツェへと拡大していくから、ここでは「人文主義前夜」という心憎い時代設定である。

ところで、古代ローマの図書館がしばしば神殿の傍らに附置されたように、中世の図書館も、その伝統を引いて修道院内に置かれていた。もう一つ、当時の図書館の特色として知られているのは次のことである。図書館の普　的な課題ともいえる、蔵書の保管性と公開性に関して、もっとも保守的な立場を取ったことである。そこでは、書物はもとより知識さえも、修道会のリーダーたちの管理下に置かれた。この小説の滑稽な主題「中世における笑いの禁制」—具体的には前述の「喜劇」の独占的保管という形を取る—は、それをエンファサイズして捉えている。もっとも、閉鎖的な所蔵に力を注ぐのは、知的管理の考え方の外にも、書物を取り巻く環境が左右している。書物の、手造りの製作や財産としての価値などの事情である。

さて小説の冒頭に、修道院の内部の「写本室」の模様が述べられている。自然な採光に格別の配慮をした大広間で、四十の窓際に四十席の机が並び、「古文書係」（アンティクアーリ）、「写本係」（リブラリイ）、「飾り文字係」（ルブリカトーリ）、研究者などが、朝方7時半頃から日没の4時半頃まで仕事にかかっている。なおいちばん採光のよい机は、「古文書係」、熟練した「彩色画家」（アルミナトーリ）、「飾り文字係」、「筆写生」（コピスティ）の専用となっている。机上には、様々な色のインク壺、ペンナイフとペン、羊皮紙を滑らかにする軽石、横の罫線を引く定規などの、道具が揃えてある。筆写生の側らには、書見台があり、上には筆写する原典の稿本が置かれている。学者たちの中には、ギリシア語・アラビア語の翻訳者、修辞学者などの顔が見え、彼らは本を読む傍ら、蝋塗りの板や獣皮紙にメモを取っている。要するに、小説での記述では、中世末の図書館が、修道士の手で書物の保管・閲覧が行なわれるだけでなく、細密画をも含む書物の製作の場所であったことを示唆している。書庫は、さらに上の階にあって、貸出は、館員の修道士が、閲覧の目的を問い質した上で、それが敬虔な意図であれば、分厚い蔵書目録の写本で捜してくれる。図書館員（ビブリオテカリオ）は修道院長にもなりうる経歴で、身分は高い。目録は、アルファベット順の著者配列や主題別の分類が、ごく最近実施され始めたために、この僧院では未使用だと説明がある。従って、書物の登録の仕方は、「入手、寄贈、入城の年代順」によって書き留められたものである。そこで館員は、それぞれの本の入手経路や

状況を記憶しておかなければならない。ただし、書物の所在については、ローマ数字の略語などによって、書架の中の位置、段数、書棚の配架場所の記録がなされている。さらに、物語りの発端でもある行方不明の、飾り文字係の修道士が仕残した作品を通して紹介される。貴重な小羊の羊皮紙に、この男の手で綿密にミニアチュールがほどこされていて、その制作過程が教えられる。これらすべての図書館内の様子は、エーコが権威ある中世学者だけに、生き生きと詳細に描写される。なお、書物の配架場所を示すプレスマークが修道院で創案されたことや、蔵書目録が、財産目録の様式と似通っていることなどは、図書館史などですでに紹介されている。

たとえば当時の知識人が、本の入手過程を記録に残す習慣があったことは、人文主義者ペトラルカが、初めて購入の写本にこんな覚え書きを書いているのでも知れる。「1325年2月、アヴィニヨンにて、この『神国論』をツールの詩人ドン・チンツィオより12フロリンで求む」

つまり、彼の記述は、そのまま目録にも通用できるわけである。もっとも、その頃のいちばん進んだ主題別分類法は、同じペトラルカが自らのために編成した「愛読書目録」ではなかろうか。この目録、1343年頃までに完成を見たといわれ、従って、エーコの指摘は、これを意識したものであろう。約50点の書物を挙げたこの「目録」は、修道院が重視した宗教書の分類に偏することなく、人文学のものをも含むため、その意味で、修道院や教会付属図書館よりも、後の大学図書館の分類法にむしろ影響を残したと考えられる。

またここでは、読書についての感想も、登場人物の口を借りて随所に出てくる。なかに乱読をする者が、悪魔に憑かれる話しもある。僧院では自由な読書は許されなかった。厳しい精神的指導の下での、修養のための読書が課せられた。外部貸出について、といっても、写本室からのを指すのであろうが、一般に四旬節のみ認めたとされるのも、ただ書物管理の厳しさを表わすものでなく、この期間、宗教書の読書が要求されたためであろう。

読書の心得としては、ペトラルカは、祈りや冥想の合間にすることを勧め、むやみに多読することが、心の平静を乱すとして批判している。さらに、書物を室内装飾に利用したり、儲けの手段にするような人々に激しい攻撃の鉾先を向けている。結局は、「食事のときと同様に、慎ましい読書こそ望ましい」(『幸・不幸の治療法』)ということに落ち着く。今日の言いかたなら、選書の重要性とでも説くのであろうか。

小説は、約500ページの長編で、以上のほかにも禁書や、羊皮紙の扱い、図書館員の様子などが描かれていて、興味を引く。映画化に際しての時代考証は、歴史家ル・ゴフに任されたそうだが、それでもなお作者から不満の訴えがあったと噂される。終わりに、小生のささやかな印象を付け加えれば、およそ次のようなことである。たとえ、ヨーロッパ屈指の蔵書量を誇る修道院と補足があるとしても、500冊程度が最高限度の当時の水準からも、その量が多すぎはしないか、また巻子本の形状の書物が、書架は映りながら、殆ど姿を見せなかったこと、さらに、書物の体裁が、印刷術発達以後の、たとえば16世紀前半のそれのような印象を受け、意外に感じたことである。それというのも、かって北イタリアの僧院で実際に眺めた「チェーンド・ブック」が、それは確か『グレゴリオ聖歌』の大型写本であったが、その鎖の重々しさが、ひじょうに強く私の胸にやきついていたからかもしれない。

こうして手造りで書物を作り、大事に保管していた『薔薇の名前』の時代を想像すると、現代の趣きがあまりに違うのに改めて考えさせられる。人によっては、悪魔の産物とも呼ばれるコピー機の発達のためか、理工系的思考の時流によるものか、本の無造作な部分利用やダイジェスト的読書法がもてはやされている。書物それ自体の趣きとか、いやアイデンティといったものが、その反面無残に傷つけられていく。

――外大図書館発展史 その２――

事務長　　松村俊一

創刊号では、主として昭和50年以降における本学図書館の発展経緯を述べさせてもらったが、このたびは、創設時にさかのぼって、当時の「図書館」のかたちについて、触れてみたいとおもう。

本学図書館の歴史は、その前身である大阪外国語学校の創設をまって始まるのだが、戦災校であり、創設当時の資料は皆無にひとしい。しかし、さいわいなことに、昭和８年に発刊された、学校一覧が、手許にあるので、繙いてみることにした。

外国語学校当時は、「明治26年８月26日勅令第86号文部省直轄諸学校官制」に基く、諸学校であったので、まだ完全な一つの有機体としての今日のような、わが大学図書館が、存在してはいなかったのである。

言うまでもないが、今日における国立大学図書館の設置は「国立学校設置法」に基づくもので、国立大学図書館が、すべて「附属図書館」と称するのは、この法律的根拠によるものである。さらに図書館長についても、同設置法施行規則第12条で「国立大学の附属図書館に館長を置き、その大学の教授をもって充てる。……」と定められている。

当時は、図書館長を置くことが、いわゆる諸学校には官制上無かったので、従って、正式の図書館の設置が認められておらず、学内規程としての「図書課」にすぎなかったのである。

そこで、図書の管理業務というと、「≪表１≫教務分掌現程第３条」によって、校長の下におかれた評議員の一員である教授が、「図書課長」として、図書に関する管理業務を担当していたのである。

因みに、当時の学校の運営は、≪表１≫教務分掌規程および事務分掌規程に示すとおり、「評議員会」・「主幹会」・「学科主任会」および「教官会」が今日の審議機関としてではなく、校長の諮問機関として、組織されて、それぞれに具体的な役割分担が課せられ、運営および管理面の一端を擔っていたのである。

《表１》抜粋

一．教務分掌規程

第１條　本校ニ評議員、主幹及學科主任ヲ置ク、評議員會、主幹會及學科主任會ハ必要ナル事項ヲ諮問スル為校長之ヲ召集ス

第２條　評議員會ハ評議員ヲ以テ之ヲ組織ス

第３條　評議員ハ７名トシ教授中ニ就キ校長之ヲ命ズ但シ内４名ハ教務課長、生徒課長、圖書課長及庶務課長ニ之ヲ命ズ

第４條　主幹ハ生徒ノ紀律學業ヲ督勵スル爲各部ニ１名之ヲ置ク

第５條　主幹ハ教官中ニ就キ校長之ヲ命ズ

第６條　主幹會ハ主幹及評議員ヲ以テ之ヲ組織ス

第７條　學科主任ハ當該學科ノ統一ヲ計ル爲其ノ必要アル學科ニ１名之ヲ置ク

第８條　學科主任ハ教官中ニ就キ校長之ヲ命ズ

第９條　學科主任ノ處理スベキ事項左ノ如シ

１．教務課ト協力シテ最モ効果アル教授法ヲ實施スルコト

１．教官分擔ヲ定ムルコト

１．教科用圖書ヲ選定スルコト

１．圖書器械、標本、材科等ヲ選定スルコト

１．當該學科所属ノ器械、標本、材料等ヲ保管スルコト

１．其ノ他當該學科ニ關スル必要ナル事務ヲ處理スルコト

第10條　學科主任會ハ學科主任及評議員ヲ以テ之ヲ組織ス

第11條　教官會ハ必要ナル事項ニ關シ諮問スル爲校長之ヲ召集ス

第12條　教官會ハ本校ニ勤務スル邦人教官ヲ以テ之ヲ組織ス

第13條　特ニ必要アル場合ハ當該會員ニ非ザル者ヲモ列席セシムルコトアルベシ

ニ．事務分掌規程

第１條　事務ヲ分掌スル爲教務課、生徒課、圖書課、庶務課及會計課ヲ置ク

第２條　各課ニ課長１名及課員若干名ヲ置ク
教務課長、圖書課長及庶務課長ハ教授中ニ就キ、生徒課長ハ生徒主事中ニ就キ、會計課長ハ會計主任タル書記ニ校長之ヲ命ズ

第３條　課長ハ校長ノ命ヲ承ケ主管ノ事務ヲ掌理スベシ
課員ハ課長ノ命ヲ承ケ主管ノ事務ニ從事スベシ他課ノ事務ヲ補助セシムル必要アルトキハ校長之ヲ命ズ

省　略

第６條　圖書課ノ主管スベキ事務左ノ如シ
１．圖書ノ購入及修理ノ計畫ニ關スルコト
１．圖書ノ保存及整理ニ關スルコト
１．圖書ノ貸付及閲覧ニ關スルコト
１．書庫及圖書閲覧室ニ關スルコト
１．其ノ他圖書ニ關スル一切ノ事項

省　略

《表２》抜粋

校　長　　中　目　　覺

省　略

圖書課
課　長　　教授　稲　村　純　一
書記　中　山　　博
雇　竹　味　武　雄

圖書　37,706冊
價格　100,409円

（昭和８年７日１日現在）

図書課の人員は、「課長」・「書記」・「雇」という官職の３名で構成されており、また、蔵書としての保有冊数およびその價格についても、≪表２≫抜粋に示したとおりの規模にすぎなかったのである。

「図書課」あるいは「図書室」であって、図書館として存在してはいなかったのであるが、しかし、事実上は図書館と呼称していたことは確かである。

それは、≪表３≫「図書館規程」がすでに、明文化されていることで、うなずけるのである。

このような状況のもとで、図書課の運営がなされていたのであるが、面白いことに、この規程に眼をとおして感じさせられることは、昨今の本学図書館における「電算化関係業務」を除くほかは、昭和８年から今日まで、55年間の歳月の経過があったのであるが、本質的に中味としては、さほど変化、または進化がなかったものと思われる。

規則というものは、一度定めると、それが重く、動きの鈍い、永いしきたりとなって、存在するものであるように思える。

《表３》抜粋

圖書館規程

第一　總　則

第１條　本館内ニ於テ圖書ヲ利用スル者ノ爲ニ職員閲覧室及生徒閲覧室ヲ設ク

第２條　閲覧室ハ本校休業日ヲ除ク外毎日之ヲ開ク
但シ開閉時刻ハ其ノ都度之ヲ掲示ス
右休業日ノ外圖書點檢其ノ他必要ニ依リ臨時閉館スルコトアルベシ

第３條　本館ヲ利用シ得ル者ハ左ノ如シ
１．本校職員
２．本校生徒（但シ別科生ヲ含マズ）
３．本校卒業生
４．特ニ校長ノ許可ヲ受ケタル者

第二　館内閲覧

第４條　職員圖書ヲ閲覧セントスルトキハ自ラ書庫ニ入リテ圖書ヲ檢索スルコトヲ得
書庫内ニテ檢索シタル圖書ヲ閲覧室ニ於テ利用セントスルトキハ別ニ借覧ノ手續ヲ爲スベシ

第５條　生徒ハ圖書檢索カードニヨリ檢索ヲ爲シ閲覧證ニ所定ノ事項ヲ明記シ圖書閲覧票ヲ添ヘテ之ヲ掛員ニ差出スベシ

第６條　圖書閲覧票ハ毎學年ノ始ニ交付ス

第７條　閲覧室ニ於テ閲覧スル圖書ハ室外ニ携出スルヲ許サズ

第８條　貴重圖書ハ指定ノ場所ニ於テ閲覧スベシ

第９條　圖書修理其ノ他必要ニヨリ該圖書ノ閲覧ヲ一時停止スルコトアルベシ

第10條　閲覧者ハ左ノ諸項ヲ遵守スベシ

１．靜肅ヲ保ツコト

２．圖書、器具其ノ他ノ設備ヲ破損セザルコト

３．閲覧室内ニ於テ飲食喫煙セザルコト

４．館内規律ニ支障アル風態ヲ爲サザルコト

５．其ノ他掛員ノ指示ニ遵フコト

第三　館外貸付

第11條　圖書ハ校長室、教官室又ハ事務室備付ノ爲貸出スコトヲ得

前項備付圖書ハ各室ノ上席者又ハ各學科主任之ガ借受及保管ニ付テ其ノ責ニ任ズ　備付ノ圖書ハ當該室以外ニ携出スルコトヲ得ズ

必要アルトキハ本條圖書ヲ調査シ又ハ一時之ガ返却ヲ求ムルコトヲ得

第12条　本校職員、生徒ハ圖書ノ館外貸付ヲ受クルコトヲ得

前項ノ借受ハ教官20部30冊以内事務職員５部10冊以内、生徒２部３冊以内トス但シ和漢裝釘ノ圖書ハ右冊數ヲ倍加スルコトヲ得

第13條　左ニ掲グル圖書ニ關シテハ前條第１項ヲ適用セズ

１．貴重圖書

２．委託圖書

３．辞書類

４．統計及年鑑類

５．新聞及新刊雜誌

第14條　圖書ノ貸付ヲ受ケントスル者ハ總テ定式ノ借用證ヲ差出スベシ但シ生徒ニ付テハ主幹（主幹不在ノ場合ハ圖書課長）ノ認印ヲ要ス

第15條　生徒ノ借用期間ハ２週間以内トス

第16條　貸出中ノ圖書ニシテ必要アルトキハ臨時之ヲ返却セシムルコトヲ得此ノ場合ニハ３日以前ニ其ノ旨ヲ通告ス

第17條　借用ノ圖書ハ毎年７月５日迄ニ悉皆返却スベシ

第18條　生徒ニ對シテハ夏季休業期ニ亙ル圖書ノ貸付ヲ爲サズ但シ主幹ニ於テ生徒ノ研學上特ニ必要アリト認ムル場合ニハ特別ニ詮議スルコトアルベシ

第四　雜　則

第19條　凡テ借用シタル圖書ハ之ヲ他ニ轉貸スルコトヲ得ズ

第20條　借用シタル圖書ハ鄭重ニ取扱ヒ字句ヲ改竄、記入又ハ塗抹若ハ句讀ヲ施ス等ノコトヲ爲スベカラズ萬一破損、汚染若ハ紛失シタル者ハ修繕ヲ加ヘシメ若ハ代本又ハ代價ヲ以テ辯償セシム

第21條　本規程ニ違反シタル者ニ對シテハ本館ノ利用ヲ停止シ若ハ禁止ス

創刊号で「大阪外国語学校敷地竝校舎畧図（昭和８年）」を照会したが、当時「図書」にかかる施設は、三階建の書庫・職員閲覧室および生徒閲覧室ならびに図書課（開架棚設置スペースを含む）からなり、これらの面積は不明であるが、書庫を除き他はいずれも等分化されていたことは、その畧図から推測できる。

当然職員より多い生徒の閲覧室の拡大を計るべきだが、あえて職員と生徒のそれぞれの閲覧室の面積を等しくした理由は、合同の教官控室というものがあつたものの、今日のような個人研究室がなかつたので、これに変るスペースが是非とも必要であつたからであろうと思われる。

図書課に隣接して、小規模ながら消毒室が設けられていたが、衛生的には特に注意が払われていたことがうかがえる。これは、防虫の機能を充たすためのものであつたと思われるが、むしろ時代的に言って、結核菌など伝染病予防のための配慮があったのではなかろうかとも考えられる。

当時は、図書の選択と受入が、どのような手続きによって、おこなわれていたかも、不明なところである。

先述のように、図書課長・書記・雇の三名で業務が行なわれていたのであるが、今日の「司書職制度」というものがなかつた時代なので、多

分、図書の受入を事務関係の書記・雇が担当し、図書の選択については《表1》第9条中に、学科主任の処理すべき事項の一つとして「教科用圖書の選定」がある。いわゆる図書課とは直接に関係のない学生指導書の選択を行っていたのであるが、恐らく、学生用の基本図書および一般図書なるものの選択をも、併わせて、学科主任会が担当していたものと思われる。

しかし、また別な視点からみると、上述の評議員中より、校長が任命した、圖書課長の権限によって、購入・受入を専決していたとも考えられる。

以上述べてきたように、今日の大学とは異った教育上のかたちがあったことは、自明ではあるが、非常に興味深いものであると思われるので、資料を繙きつつ、若干の感想を述べてきた次第である。

また、紙数の関係もあって、次号にしたいのであるが、ごく最近の図書委員会における課題として、学報に関することがとりあげられ、近い将来には、発展的に図書委員会からその業務が分離され、仮称「学術出版委員会」または、「学報出版委員会」として発足することが予想されている。

《表4》抜粋

出版物審査委員會規程

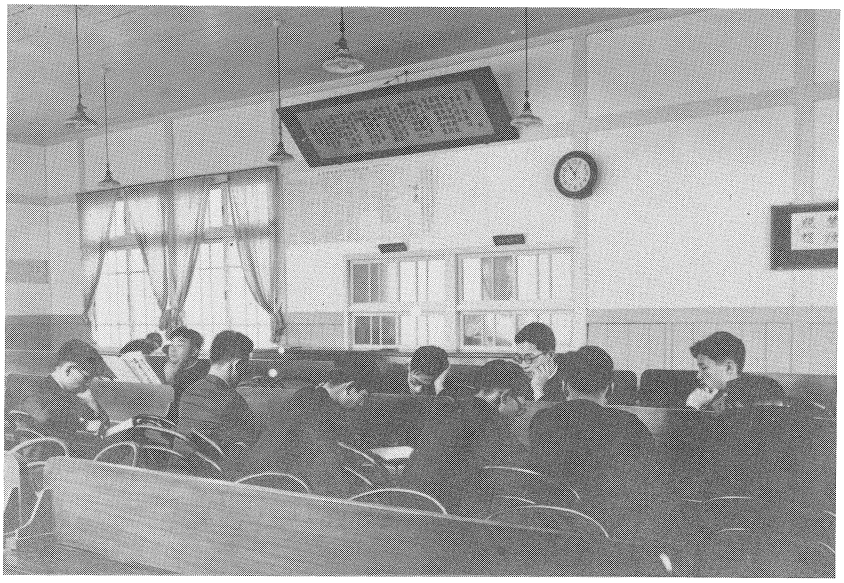
第1條　大阪外國語學校出版物審査委員會ハ校長ノ監督ニ属シ大阪外國語學校紀要、旅行報告書、講演録其ノ他本校ニ於テ出版スベキ出版物ノ内容ノ審査及決定ニ關スル事務ヲ管掌ス

第2條　校長ハ職員中ヨリ委員長1名、委員若干名ニ委嘱シテ大阪外國語學校出版物審査委員會ヲ組織セシム、必要アル場合校長ハ臨時委員ヲ委嘱スルコトアルベシ

第3條　審査セラルベキ論文考案資料其ノ他ノ著譯作者ハ委員會ニ出席シテ其ノ内容ヲ證明シ主意ヲ開陳スルコトヲ得、但シ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ズ、著譯作者委員ナル場合其ノ委員亦然リ

第4條　委員會ノ決定ヲ以テ出版セラレタル出版物ノ著作權ハ大阪外國語學校ニ歸属スベキモノトス

これに関連して、そのルーツとも言える当時の「出版物審査委員会規程」《表4》及び「刊行物(昭和8年7月1日現在)」《表5》について、当時の研究活動の側面を、この機会に照会しておきたい。



昭和8年当時「図書館閲覧室に籠って」

《表5》抜粋　刊行物

昭和8年7月1日現在

書名	著者	刊行年月
海外視察録		
第1號　我が朱印船の安南通商に就て 支那の國語教育に就きて	瀬川亀 井上翠	大正11年11月
第2號　バルマ記	稲村純一	大正12年10月
第3號　米國太平洋岸の商業教育 香港の政治	伊藤資 小西生茂	大正14年3月
第4號　蘭領東印度概觀	山上萬次郎	大正14年10月
第5號　米墨見聞記	中目覺	大正14年10月
第6號　滿洲に於ける滿人と其言語及書籍 英國博物館訪書録 英領馬來に於ける土民教育に就て	渡部薫太郎 篤内淵藤春三	大正15年3月
第7號　青島概記 極東シベリヤに於ける教育事業の現狀	熊谷俊 岩崎兵一次郎	昭和2年3月
第8號　訪英見聞雜記	吉本正 上田峠秋甫	昭和3年3月
第9號　長江遊記 東阿弗利加遊記	中目覺 中目覺	昭和3年11月
第10號　古書あさり其他 波斯見聞雜録 アルゼリア事情	本多平八郎 澤西英三 小西茂	昭和4年3月
第11號　比律賓紀行 パリー島	野田慶一 内藤春三	昭和5年3月
第12號　バスクの國	目黒三郎	昭和6年3月
第13號　イタリア日記	中目覺	昭和7年3月
第14號　滿洲國と移民問題 大連市設小商市場警見 滿商に對する日商の地位	大平瀬母 北川延尾	昭和8年3月
大阪の文化施設	大阪外國語學校	大正12年8月
中學校に於ける外國語に就いて	大阪外國語學校	大正13年3月
成人教育と公民科	中目覺	大正14年9月

図書館統計

1987年度　受入図書数

	和漢書	洋書
総記	1,015	420
哲学	249	440
歴史	616	554
社会科学	828	508
自然科学	219	165
工学	62	47
産業	131	122
芸術	138	121
語学	924	1,126
文学	1,648	1,149
計	5,830	4,652
総受入冊数	10,482	

図書館蔵書数

（1988年5月1日現在）

	和漢書	洋書
総記	33,833	16,586
哲学	8,292	17,354
歴史	20,513	21,898
社会科学	27,595	20,016
自然科学	7,295	6,513
工学	2,048	1,831
産業	4,375	4,786
芸術	4,593	4,799
語学	30,770	44,398
文学	54,907	45,254
（石濱文庫）	28,620	3,269
計	222,841	186,704

＊＊＊ 1987年度　学年別図書館利用統計表 ＊＊＊

月	1　年	2　年	3　年	4　年	大学院	Ⅱ　部	卒業生	その他	計	5時以降
4	223	126	178	360	85	190	19	48	1,229	340
5	239	192	302	576	161	329	28	109	1,936	665
6	243	231	382	701	123	371	32	91	2,174	754
7	240	242	342	566	152	424	30	100	2,096	669
8	18	11	15	36	11	23	4	7	125	0
9	244	209	380	402	107	383	12	52	1,789	594
10	286	297	412	841	151	468	16	93	2,564	940
11	221	191	354	645	132	390	14	95	2,042	680
12	257	300	522	1,002	136	511	12	92	2,832	910
1	318	307	507	376	74	475	11	94	2,162	836
2	417	577	814	465	108	842	17	105	3,345	1,205
3	31	58	87	92	51	85	7	21	432	0
合計	2,737	2,741	4,295	6,062	1,291	4,491	202	907	22,726	7,593

＊＊＊ 1987年度　学生図書貸出統計表 ＊＊＊

区分	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計		
月	総　記	哲　学	歴　史	社会科学	自然科学	工　学	産　業	美　術	語　学	文　学	冊　数	人　数	開架冊数
4	220	107	262	494	27	22	24	48	421	508	2,133	1,229	1,715
5	388	202	440	727	36	46	51	76	738	724	3,428	1,936	2,616
6	428	183	469	931	50	33	31	98	682	750	3,655	2,174	2,889
7	372	295	634	1,103	80	40	43	126	921	910	4,524	2,096	3,673
8	25	21	46	52	9	2	1	8	50	41	255	125	191
9	339	159	432	764	153	30	30	89	527	704	3,227	1,789	2,602
10	616	207	555	1,127	74	47	64	110	797	976	4,573	2,564	3,519
11	431	219	437	870	48	47	60	103	801	781	3,797	2,042	2,943
12	402	340	749	1,575	92	51	61	168	1,064	1,320	5,822	2,832	4,749
1	258	261	541	945	116	37	36	102	782	929	4,007	2,162	3,375
2	346	456	1,024	1,627	243	49	47	203	1,423	1,576	6,994	3,345	6,202
3	81	47	132	250	13	6	20	24	213	267	1,053	432	830
合計	3,906	2,497	5,721	10,465	941	410	468	1,155	8,419	9,486	43,468	22,726	35,304

*** 1987年度　語学分類別貸出統計表 ***

月	800	810	820	829	830	840	849	850	860	869	870	880	889	890	計
	語学総記	日本語	中国語	東洋諸語	英　語	ﾄﾞｲﾂ語	北欧諸語	ﾌﾗﾝｽ語	ｽﾍﾟｲﾝ語	ﾎﾟﾙﾄｶﾞﾙ諸　語	ｲﾀﾘｱ語	ﾛｼｱ語	ｽﾗｳﾞ諸語	その他諸国語	
4	97	92	27	90	87	8	4	26	7	9	1	22	9	21	500
5	207	158	47	108	158	12	10	23	25	5	7	29	15	28	832
6	160	144	42	93	133	16	2	33	36	8	6	41	11	32	757
7	322	183	56	105	235	32	3	43	35	7	2	40	6	21	1,090
8	16	4	1	15	23	0	3	0	0	0	0	1	0	0	63
9	183	84	38	82	109	16	2	28	20	2	4	22	12	20	622
10	204	181	60	101	156	25	1	36	25	12	6	50	8	16	881
11	231	142	81	77	221	14	4	28	11	10	2	31	10	17	879
12	250	202	102	144	252	37	8	39	30	20	13	35	9	37	1,178
1	207	162	62	91	135	26	7	37	48	9	17	28	5	25	859
2	443	250	74	168	337	33	7	66	57	9	18	63	7	31	1,563
3	90	53	30	27	56	16	4	7	2	2	0	11	2	2	302
合計	2,410	1,655	620	1,101	1,902	235	55	366	296	93	76	373	94	250	9,526

*** 1987年度　文学分類別貸出統計表 ***

月	900	910	920	929	930	940	949	950	960	969	970	980	989	990	計
	文学総記	日本文学	中国文学	東洋文学	英米文学	ﾄﾞｲﾂ文学	北欧文学	ﾌﾗﾝｽ文学	ｽﾍﾟｲﾝ文学	ﾎﾟﾙﾄｶﾞﾙ文　学	ｲﾀﾘｱ文学	ﾛｼｱ文学	ｽﾗｳﾞ文　学	その他諸国文学	
4	40	95	51	48	120	44	8	62	36	0	7	57	2	9	579
5	62	165	76	85	180	33	15	76	57	0	16	72	0	13	850
6	75	163	49	62	192	67	5	83	47	0	22	74	1	11	851
7	84	160	78	92	259	50	5	106	52	0	38	134	0	7	1,065
8	9	24	6	8	20	4	0	7	0	0	1	7	0	0	86
9	61	168	60	53	172	36	6	75	30	0	14	97	0	13	785
10	64	237	105	100	247	60	10	106	57	5	16	94	1	12	1,114
11	83	168	74	69	233	41	8	63	37	0	13	64	6	8	867
12	98	274	113	121	377	73	18	116	75	7	20	160	0	13	1,465
1	78	196	70	92	304	73	10	85	42	7	15	58	0	12	1,042
2	127	327	135	139	381	117	11	172	85	13	38	129	1	27	1,702
3	23	41	25	43	60	12	3	44	15	6	3	56	1	2	334
合計	804	2,018	842	912	2,545	610	99	995	533	38	203	1,002	12	127	10,740

昭和62年度購入外国学術図書について

昭和62年度補正予算にかかる外国学術図書購入費により、以下の資料を購入、受入れたのでお知らせするとともに、大いに利用されんことを願うものである。

分　類	書　名	冊　数
089-4	Collection Budé : Auteurs grecs et latins. Collection d'études anciennes. (Belles Lettres) (ﾋﾞｭﾃﾞ･ｺﾚｸｼｮﾝ ：ｷﾞﾘｼｬ･ﾗﾃﾝ作家集成　古代学研究叢書)	690
別　掲	An Original & Reprint Book Collection on Japanology. (日本関係研究コレクション)	224
052-72	Cummulative Book Index. (H.W.Wilson) (C.B.I.英文書籍目録)　1928-1978	25
237-150	Historia e Urbanium e Regionum Italiae Rariores. (イタリア地方史および都市史コレクション)	179
237-149	Fonti per la Storia d'Italia. La Moderna e Contemporanea. (イタリア近・現代　一次資料)	138
283.3-13 283.3-14	Dictionary of National Biography. vol.1-22. 1st-8th Suppl. Concise Dictionary. (Oxford Univ. Press)　(英国人名大事典)	34
310.3-39	Biographical Dictionary of Modern British Radicals. vol.1-3. (Harvester)　(英国ラディカル人名大事典)　1984-1986	3
670.3-29	Dictionary of Business Biography. vol.1-5. (Butterworth) (英国企業家人名事典)　1984-1986	6
032.9-17	Lughat Name. vol.1-222. (ペルシャ語百科辞典)	50
	Carte de Cassini de France (each one copy). 1:86,400 (No.1-7, 21-27, 41-46 以上 20 sheetsは除く) (カッシニ・フランス地形図 (1750-1815))	160

日本関係研究コレクション （そのⅠ）

(An Original & Reprint Book Collection on Japanology)

025. 1／12 A Bibliography of the Japanese empire Vol. 1. 1859-1893 Vol. 2. 1894-1906

028. 1／13 Japan and Korea : a critical bibliography

028. 1／19 Japan through children's literature

028. 2／3 Bulletin of Far Eastern bibliography Vol. 1～5 (no. 1-5)

121. 5／57 Sage Ninomiya's evening talks

121. 9／74 A Comparative history of ideas

133. 9／34 Zen and American thought

160. 21／14 Japan's religious ferment : christian presence a mid faiths old and new

160. 21／16 Religions in Japan : Buddhism, Shinto, Christianity

160. 21／17 The New religions of Japan : a bibliography of Western-language materials

170 ／17 Shinto : the way of Japan

181 ／64 The Essentials of buddhist philosophy

183 ／83 Buddhist texts from Japan

184 ／34 The Dragon in China and Japan

188 ／99 Zen and the Bible : a priest's experience

188 ／100 Dogen's formative years in China

190. 21／31 The Catholic church in Japan : a short history

190. 28／55 Culture and religion in Japanese-American relations

194 ／33 Meditations

210. 03／32 Japanese history and culture from ancient to modern times

210. 5／116 Japan in the Victorian mind

210. 5／117 The Roots of modern Japan

210. 5／120 Emperor and nation in Japan : political thinkers of the Tokugawa period

210. 5／121 Japan since Perry

210. 5／122 Russia's Japan expedition of 1852-1855

210. 5／124 Narrative of the expedition of an American squadron to the China seas and Japan

210. 5／124 Narrative of the expedition of an American squadron to the China seas and Japan

210. 5／124 Observations of the zodiacal light

210. 6／157 Russia against Japan, 1904-05 : a new look at the Russo-Japanese War

210. 6／159 Japan in recent times 1912-1926

210. 6／160 Japan : an economic and financial appraisal

210. 6／161 Japan's emergence as a modern state

210. 5／165 Feudal background of Japanese politics

210. 7／140 An Intellectual history of wartime Japan 1931-1945

210. 7／142 The Divine wind : Japan's Kamikaze force in World War Ⅱ

210. 7／143 Kogun : the Japanese army in the Pacific War

210. 7／144 The Double patriots : a study of Japanese nationalism

210. 7／145 Conspiracy at Mukden : the rise of the Japanese military

210. 7／146 The Japanese nation : a social survey

210. 76／13 The Purge of Japanese leaders under the occupation

210. 76／14 A Cultural history of postwar Japan 1945-1980

210. 76／15 Occupation of Japan : policy and progress

211 ／11 Roport from Hokkaido : the remains of Russian culture in northern Japan

222 ／562 Major topics on China and Japan : a handbook for teachers

223. 1／52 L' Indochine française en face du Japon

253 ／165 Dictionary of Asian American history

253. 07／49 Native American aliens

253. 07／51 This is Pearl! : the United States and Japan-1941

253. 07／52 Administrative highlights of the WRA program

253. 07／52 Community government in war relocation centers Vol .2

253. 07／52 The Evacuated people : a quantitative description

253. 07／52 Legal and constitutional phases of the WRA program

253. 07／52 People in motion : the postwar adjustment of the evacuated Japanese Americans Vol. 5

253. 07／52 The Relocation program : a guidebook for the residents of relocation center Vol. 6

253. 07／52 The Relocation program Vol. 7

253. 07／52 Token shipment : the story of America's war refugee shelter

253. 07／52 WRA : a story of human conservation Vol. 9

253. 07／52 Wartime exile : the exclusion of the Japanese Americans from the West Coast Vol. 10

253. 07／52 The Wartime handling of evacuee property Vol. 11

253. 07／53 Pearl Harbor attack

289. 1／108 Daughter of the Pacific

291 ／140 Year of the wild boar : an American woman in Japan

ドゥワルカダース図書館のことなど

図書委員会委員長　桑　島　　昭

デリーから北に5時間ほどバスに揺られて行くとチャンディーガルに着く。インド独立後ル・コルビジュの設計によって生まれたこの都市のなかで、歴史の重みを感じさせる数少ない場所の一つが、ドゥワルカダース図書館である。図書館の利用規則に「居眠りとつばを吐くことを禁ずる」と記されていたが、つばはともかく、30°あるいは40°を超える暑さのなかでは眠気を抑えるのが難かしいときもある。

ドゥワルカダース図書館は、第一次世界大戦後、インド民族運動の指導者ラーラー・ラージパト・ラーイが、彼個人の蔵書を基礎に友人の名を採ってラーホールに設立した図書館であり、1947年8月のインド・パキスタン分離独立に伴ない、インドのシムラーを経てチャンディーガルに落着いたのである。1920年代のラーイは、ガンディーの考えに必ずしも同意しなかったが、公立学校ボイコットを唱える民族教育運動の呼びかけに応じてパンジャーブ・ナショナル・カレッヂを創設した。カレッヂに集まった青年達にとってドゥワルカダース図書館は知識と行動の源泉であり、1931年に24歳で絞首台に上った革命家バガト・シンもこの環境のなかで育っている。実際、1977年に面接の機会を得たナショナル・カレッヂ第二代校長チャッビル・ダース氏の話や、ヒンディー語で『不滅の殉教者達の思い出』を綴っている1920年代の図書館長ラージャラーム・シャーストリー氏の記述などを合わせると、当時のインドの青年達の視野が、独立への欲求に促がされてアイルランド問題、イタリアのマッツィーニとガリバルディー、フランスの啓蒙思想家ヴォルテールとアナキストのヴァイヤン、女性革命家フィグネルの生涯を含むロシア革命史、アメリカの作家アプトン・シンクレアの小説にいたるまで広く開かれていたのを知ることができる。

しかし、南アジアの近代史において世界をかけめぐったのは思想の領域だけではない。第一次世界大戦に際して、多くのインド兵がヨーロッパ戦線に送られて犠牲者となった。他方、この時期、アメリカ大陸に移住したインド農民を主たる基盤として武力によってインド独立を達成しようとしたガダル（反乱）党の影響は、アメリカ、カナダ、ドイツ、トルコ、アフガニスタンのほか、インド人移民の拡がりとインド軍の駐屯を背景として、シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン、タイ、ビルマ、中国、そして日本にまで及んでいた。ドゥワルカダース図書館の外に開かれた性格は、このような大戦期の歴史と深くかかわっている。というのは、大戦中アメリカに亡命の身であったラーイは、ガダル党のドイツへの期待に疑問を抱きつつ、独自の国際的視点を身につけたのである。

南アジアの近・現代史は決してそれ自体完結したものではなく、同時代の世界との不断の相互滲透の歴史であり、その影響は社会の表層にのみとどまるものではない。例えば、バスコ・ダ・ガマのインド到達は、インドのマラーバール海岸に生きる人達にとっては、「地理上の発見」で済ますことのできない凄惨な闘いとその陰影を歴史に刻むことになった。逆に、『人間の義務』に見られるマッツィーニの思想と「イタリアの統一」の運動は、ヨーロッパ史の枠組を越えて、マッツィーニにほとばしる思いを寄せてきた南アジアの歴史をも射程内に入れることにより、意想を絶した同時代史への誘いとなるかもしれない。

ところで、1983年に、カトマンズで公認会計士の仕事をしている友人によってブレヒトの戯曲『セチュアンの善人』がドイツ語からネパーリー語に訳された。彼の話では、ネパールの人達はこの作品を自分のことのように理解していたという。こうした態度は、もちろん、作品の舞台が東洋に置かれていること、煙草屋、水売りなど登場人物の身近さ、そしてこの劇にこめ

たブレヒトの世界観を抜きにして論ずることはできないが、同時に、ネパール人の考え方がいかに国境を越えていくかをも教えている。

「地域研究」とは「地域」という世界を築いて立て籠ることではない。籠るはずの「地域」は意外なほど外に通じているからである。先日、「コートニス医師の不滅の生涯」と題するインド映画が大阪で上映された。この作品は独立前夜の1946年に製作され、抗日戦のさなかの中国に派遣されたインド医療使節団の一人、青年医師コートニスの戦場での医療活動、中国人女性との結婚、そして彼の悲劇的な死を描いたもので、1930年代から第二次世界大戦期にかけてインド人が中国の民衆の闘いに寄せた共感を素直に伝えている。きびしい現実を映してなお、さわやかな印象を残すこの名画では、地域を出る力強い意志と地域へ帰ることへの切々たる思いとのあいだに微妙な調和が保たれていた。

（インド・パキスタン語学科教授）

〈お知らせ〉

第10回大阪外国語大学石濱文庫記念講演会の開催について

下記のとおり、第10回大阪外国語大学石濱文庫記念講演会を催しますので、ご来場をお待ちしております。

1．日　時：昭和63年10月29日(土)　午後１時30分～４時30分
2．場　所：大阪外国語大学附属図書館視聴覚ホール（図書館棟４階）
3．講　演：『私の祖父とシルクロード』
　　作家　石　濱　紅　子
　『日本からの発信―地球化時代の外語教育―』
　　作家　小　松　左　京
　『１８６２年の遣欧使節に関する若干のことども』
　　本学教授　君　塚　　進
4．展示会：当日、石濱文庫に関連した展示を図書館閲覧室で行っています。
5．その他：入場は無料です。

※講演について

石　濱　紅　子

日本ペンクラブ会員。作家石濱恒夫氏の長女で、父君とのヨットでの大西洋横断の体験をみずみずしい感性で描いた『海よ、私はくじけない』で注目される。昨年、中日友好協会の招待で、祖父のゆかりの地敦煌を訪ねる。他に、童話『アリとチョウチョウとカタツムリ』、民話『かっぱと魔法の筆』がある。

小　松　左　京

日本ＳＦ界の重鎮。箕面市在住。昭和32年『地には平和』でデビュー。その後長編『日本アパッチ族』、『日本沈没』、『首都消失』の意欲作を発表。庶民的感覚をもつ構想力豊かな文明論的作風で知られる。代表作『日本沈没』は10数カ国語に翻訳されている。評論に『未来の思想』など。

君　塚　　進

本学人文地理学教授。アジア歴史辞典付図の編纂（『アジア歴史辞典』別冊）、『印旗沼落堀考』の論文がある。年来、柴田剛中（幕府外国奉行）の日記『仏英行』の校注（『西洋見聞集』）など、幕末、海外に渡航した知識人の、異文化ショックのテーマに深い関心を示している。

本学所蔵の復元「イドリーシーの世界地図」について

アラビア・アフリカ語学科助教授　竹　田　　新

「イドリーシーの世界地図」の１つを復元したものが本学図書館の地図コーナーに飾られている。これは本学アラビア・アフリカ語学科の池田修教授が昨年11月末、ミルバド・アラブ詩人大会に出席のためバグダードを訪問された折、イラク科学アカデミー総裁サーレフ博士から寄贈を受けたものである。

イドリーシーal-Idrīsī (1165年没)はシチリアのノルマン王ルッジェロ２世に仕えたアラブ人地理学者で、この王の命により、銀盤に彫られた世界の平面球を作成し(現存しない)、更にはその解説書として『諸国踏破を熱望する者の楽しみの書』、通称『ルジャールRujār(この王のアラビア語読み）の書』という世界地誌を著した(1154年)。

この書は言わばプトレマイオス（168年頃没）の『地理学入門』の延長上にあるものだが、北半球の居住世界を南から北へと７つの平行圏たる気候帯に分け、更に各気候帯を西から東へと10区に割り、１区ずつ地誌を記していく。そして、その序章には１葉の丸い世界図、残りの70章にはそれぞれ１葉の四角い部分図が付いていた(その他、第１気候帯より南部および第７気候帯より北部を描写した各１葉の地図もあった)。

現在イドリーシーの地図と称されるものには、パリの国立図書館所蔵のArab.2221とArab.2222、オックスフォードのボドレー図書館所蔵のUri884・Greaves42と、Uri887・Pococke375、イスタンブールのアヤ・ソフィア図書館所蔵のNo. 3502などがあるが、1928年にドイツの地図学者コンラド・ミラーがこれらを基に、70葉の部分図をつなぎ合わせて、地名をローマ字で表示した１葉の長方形の世界図を作成した(Konrad Miller, *Weltkartedes Arabers Idrisivom Jahre 1154*, Stuttgart；再版1981, 本学所蔵)。そして、イラク科学アカデミーのムハンマド・バフジャ・アルアサリー教授とジャワード・アリー博士がこれを本来のアラビア文字表示に直すと共に、『ルジャールの書』に基づく、他の写本地図などに当たって改正を加えたものを1951年に同アカデミーから出版し、1970年にその第２版がイラク技術者ユニオンから出された。それが本号の表紙を飾っているものである。

この図でまず目に入るのは彩色が施され、海は青色(白線は波)、陸は淡黄色、川や湖は緑色、山は黄・赤・紫紺・茶色など（山の地質の違いによる)、都市は金茶色、都市名は黒色、その他の地名は赤色となっていることであろう。いわゆる中世イスラーム世界における地図は、大別すれば、フワーラズミーal-Khuwārazmī(847年以後没）を始めとして、このイドリーシーなどに見られる、経緯線を使った、いわゆるプトレマイオス系統の地図と、バルヒーal-Balkhī (934年没）以下の、直線・円・楕円などを用い、道案内図的な（サーサーン朝の行政用地図の影響を受けたとされる）イスラーム・アトラスと称されているものとの２種類があるが、後者に属するムカッダシーal-Muqaddasī (1000年頃没）も、自分の地図は街道を赤色、砂地を黄色、海洋を緑色、河川を青色、山地を茶褐色にして誰にでも理解されるようにしたと述べており、かなり早くから地図に彩色が施されていたのではなかろうか。

次に目に付くのは地図の方位が南を上にしていることであろう。これは上記のいずれの種類の地図にも見られる特徴であり、南はイスラームにおいて善・吉・浄たる右に通じる方位であるからだとか、メッカ・メディナをなるべく右上に置こうとした結果だとか言われている。

第３の特徴としてアフリカ南部が東方へのびていることが挙げられよう。これはプトレマイオスの影響を受けたものだが、プトレマイオスと異なるのは、フワーラズミー以降インド洋が外洋に通じるように改正されている点である。周海という外洋からのびた地中海とインド洋が対称をなし、スエズ地峡であい接する構図は、

コーランの25章53節などに現れる２大海説にうまく当てはまるものである。

最後に本号の図２（アジア南東部）を例にイドリーシーの地図を少し詳しく眺めてみよう。インドal-Hind半島の突出が殆ど見られず、代わりにSarandīb島（スリランカ）がかなり大きく描かれており、プトレマイオスを踏襲している。ところが、プトレマイオスそしてフワーラズミーにはなかったar-Rāmī島（スマトラ）やas-Sīlā諸島（新羅、即ち朝鮮）が出現しており（共にアラビア語文献の上では９世紀中頃から登場）、両者の間にも、細長くのびる「al-Qamar（或はQumr）島、つまりMalā'ī島」が描かれている（この島はアフリカのマダカスカル島説や、マレー半島説など論議を呼んでいる）。また、プトレマイオス、フワーラズミーと異なり、インドより

先の海岸線は中国aṣ-Ṣīnまで東へとのび続け、ここにaṣ-Ṣanf（ベトナム南部のチャンパ国）、Lūqīn（龍編、即ち交州（ハノイ））、Khānfū（広府、即ち広州）、Jānkū（Jānfū、泉州）といった中国航路の寄航地（やはり９世紀中頃からアラビア語文献に登場）が配置されている。このように、アジアもインド以東になると不正確さが目立つ（一方、西のペルシャ湾、カスピ海などの形状はかなり実際に近い）とはいえ、同時代のヨーロッパのマッパ・ムンディに比較すると、はるかに優れていることは疑いのないところである。

「不条理の影」　松村和紀 作

編集後記

◇左の絵画は、故八木浩教授（元図書館長）夫人、文代氏から寄贈されたものであり、現在図書館中央階段の１・２階踊り場壁面に掲げている。

◇表紙の写真は、「イドリーシーの世界地図」（復刻）を印刷したものである。

◇今号では、1987年度の図書館統計を掲載したが、この他にも本学独自の閲覧、利用統計を作成しており、今後それらの統計資料の調査分析を行い、次号に報告したいと考える。

LIBRARY　INFORMATION

— 第４号 —　1988年10月25日

編集発行　大阪外国語大学附属図書館

印　　刷　㈱ユニワールド印刷センター